

医学部

医学教育プログラム ■全人的医療実践人育成

取得できる学位 ★学士（医学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

- ・豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成。
- ・高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成。
- ・広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成。
- ・保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成。
- ・地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成。
- ・探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成。

温かな人間性と豊かな国際性を持つ医療人、医学研究者を育成するために、教養教育から専門教育まで一貫とした人間性重視の教育を行い、高度な医療能力につながる医学の習得を目指すプログラムである。

生命に対する畏敬の念と知的好奇心にあふれる人材を広く全国より求めて、建学の精神である「人間性を尊重し、全人的医療実践する高度な能力を持つ医療人の育成」を目指す。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 人体の構造と機能について、肉眼的所見、組織所見、さらに分子生物学的知識まで説明できる。
- b) 生体防御機構と各種感染症の成因について、説明できる。
- c) 病気の成り立ちと薬剤の作用機序について、説明できる。
- d) 環境と疾病、社会における疾病の影響、医学と情報について、説明できる。
- e) 基本的医療技能の種類・方法・目的を説明できる。
- f) 病気の成り立ちと検査・診断・治療の基本について、説明できる。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 接遇の基礎と医療面接法を修得し、実践できる。
- b) 問診・身体診察を行い、病態を把握し、必要な検査を選択できる。
- c) 病態と検査結果から病気を診断し、治療を実践できる。
- d) 未知な疾患に遭遇した時に、関連情報を検索、選択して検討できる。
- e) 身体の構造（解剖）を理解し、適正・安全に外科的処置（切開・結紮・縫合）を実践できる。
- f) 救急医療やプライマリケアの基本を実践できる。
- g) 看護師、各種療法士、薬剤師等のコメディカルスタッフと協力して良好な医療チームを形成できる。
- h) 患者さんの社会的背景・個人的事情を考慮することができる。
- i) 地域医療の現状を理解し、地域の疾病予防・安全衛生について、指導できる。
- j) 発展途上国の医療事情を理解し、その医療活動に貢献できる。

k) 医学研究を遂行し、研究成果を国際的に発表し、世界の医学・医療の進歩に貢献できる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 教養教育に基づいた知識により社会における医療の立場・役割を理解できる。
- b) 日本語でも英語でも会話・発表・情報収集ができる。
- c) 医学・医療の様々な課題について情報機器を活用して情報収集ができる。
- d) 数値を整理し、統計データを作成、分析して、活用できる。
- e) 共通の目的を達成するために、チームの一員として協力、貢献できる。
- f) 個人の学習・研究や学術の発展のための目標を適切に設定できる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 全人的医療の実践に相応しい医師としての態度。
- b) 医師として生涯にわたって学習しようとする姿勢。
- c) 何事にも知的好奇心を示して積極的に知識を吸収する意欲。
- d) 社会における自らの責務を自覚する責任感とそれを実践する行動力。
- e) 地域医療に十分な関心を持ち、積極的に貢献する姿勢。
- f) 医療公布活動・公開講座等の地域における医学・医療の行事・取り組みに積極的に参加し、貢献する姿勢。

■ プログラムの履修要件

- ・生命に対する畏敬の念と知的好奇心にあふれ、自ら積極的に学ぶ姿勢を有する人材。
- ・知性、洞察力と判断力に優れ、健全な精神と健康な体力を有する人材。
- ・他人との協調性に富み、共に学び、実行する行動力を有する人材。
- ・病める人に対し強い共感を持つことができる人材。
- ・医師の社会における立場・役割を理解できる人材。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・プログラム立案の概要と人材育成のねらい、並びに期待される学習効果に基づき、医学科学務委員会がカリキュラムの総てを立案し、授業科目間の調整を行う。
- ・各授業科目のシラバスは、担当教員個人ないしチームにより作成される。
- ・医学科学務委員会がカリキュラムの進行状況や問題点を把握し、対策・改善を遂行する。